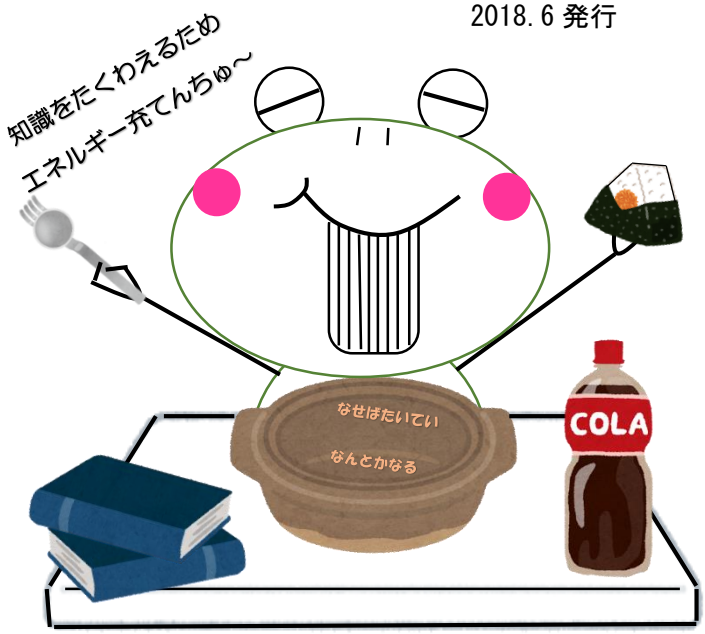
YAおすすめブックリスト

第 26 号

2018. 6 発行



くにたち中央図書館

こんにちは、としぞうだよ（=´∇｀=）
４月に辻村深月の『かがみの孤城』が 2018 年本屋大賞に選ばれたのは記憶に新しいね。最近はいろいろな文学賞があるけど、みんなが知ってる有名な賞は「芥川賞」と「直木賞」かな。芥川賞は新人作家が、直木賞は中堅や大御所の作家が受賞するイメージだけど、実はキャリアの長さではなく、ジャンルとページ数で分けられているよ。そもそも賞の名前の由来となる２ 人の作家・・・芥川龍之介は純文学（**娯楽性 ＜ 芸術性**）の作品が多く、直木三十五は大衆小説（**娯楽性 ＞ 芸術性**）の作品を残しているので、そこから選考対象のジャンルが決まったんだって。芥川賞は短・中編、直木賞は短・中・長編が対象だよ。
そして、「高校生直木賞」の第５回(2018 年)受賞作品もついに発表されたね！受賞したのは、**彩瀬まる『くちなし』(文藝春秋)**です！図書館に所蔵しているので、気になった人は借りて読んでみよう！（第４回までの受賞作品の紹介は裏面をチェックしてね☆）

おしえて？としぞう

Hey としぞう、くにたち市の図書館で持ってない本の予約ってできるの？

答えは Yes!　(*゜∇゜)*。_。)*゜∇゜)*。_。)
市内の図書館で所蔵していない本を読みたい場合、「リクエスト」することで予約できるんだ。リクエストされた本は新しく購入されることもあるし、近隣の図書館から取り寄せることもあるよ。
市外の図書館から本を取り寄せるサービスは「相互貸借」というんだよ☆⌒o(*^-゜)

としぞう

本の予約はくにたち市に在住・在学していないとできないので、気をつけて。それから、ＣＤやカセットテープはくにたち市内で持っていない場合、予約はできないので注意してね。

なんと、今回は、所蔵がない本を予約する時のやり方を教えちゃうゾ☆d(*ゝω６*)
まず、黄色の『よやくカード』に、「名前・利用カード番号・連絡方法・受取館」を記入。次は右側のマスに「本のタイトル・作者名・出版社・出版年」をできるだけくわしく書いてね。書けたら、カウンターにいる図書館員に手渡せば OK。『よやくカード』の下半分は何も書かなくて大丈夫だよ。

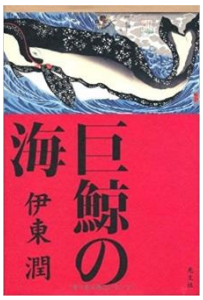
『よやくカード』は、けんさく用パソコンの近くに置いてあるのよね。
通常の予約より、用意できるまでに時間がかかるみたいだから、余裕を持って予約してね。

おおまかな説明なので、わからないことがあればカウンターへＧＯ！
(゜-゜?)(*゜-゜)ゝ!迷ったら～♪　≡ﾍ(*゜∇゜)ﾉ聞いてみよう♪　(´へ｀;)恥ずかしがらずに～♪
(人●´ω｀●)お願いしてみよう♪　(≧∇≦)b 快く教えてくれるさ～♪

【こまったときはカウンター/作詞・作曲：としぞう】

図書館職員が読んでみた
「高校生直木賞」受賞作品

中学生にも
おすすめ！



『巨鯨の海』

（伊東潤：著/光文社/2013.4/第１回受賞作）

この本は、太地湾で捕鯨をしていた太地鯨組の、江戸から明治にかけての物語です。例えば背美鯨は 17 メートル、50～60 トン。巨大な鯨を、仕掛けた網に追い込み、銛を 50 本ほど打ち込み、浜へ曳いて帰るのは命がけでした。「えーいよ　おーよおーよーお」。一頭の鯨を捕らえるために、総勢 200～300 人で沖へ向かいます。
小柄で病気がちだけれども、捕鯨の花形「刃刺」に憧れる少年。捕鯨をこっそり見に行って海で遭難する５人の子どもたち。鯨の町なのに鯨の解体や血に見ると吐いてしまい、鯨の町で生きることが息苦しい少年。海で生きる人々の生き様や、将来に悩むけれど自分の答えを見つけて力強く生きていく少年たちの姿がえがかれています。

『宇喜多の捨て嫁』

（木下昌輝：著/文藝春秋/2014.10/第２回受賞作）

時は戦国。織田信長が天下統一を果たす少し前、戦国武将・宇喜多和泉守直家の一生を描いた物語。「捨て嫁」とは、直家が実の娘たちを政略の駒のように嫁に出し、結果娘たちは命を落とすか、発狂するか・・・と悲惨な結末をむかえることから噂されるようになった蔑称。話はそんな宇喜多家の四女・於葉が嫁に出されるところから始まります。
物語は６編の短篇からなっており、章ごとに視点となる語りべが異なっています。しかし主軸は宇喜多直家であり、様々な視点から彼の人物像を追っていきます。
まるで立方体を組み立てていくような感じが味わえるかも･･･。

『ナイルパーチの女子会』

（柚木麻子：著/文藝春秋/2015.3/第３回受賞作）

YA 世代のみなさんにおすすめの本なのかはビミョーです。
しかし、SNS やブログを見ている人たちには身近な話かもしれません。
登場人物たちは皆狂気じみていますが、
自分や友人の中にも似たような部分があることに気付き、ドキッとする人もいると思います。
大人の女性の怖い話ですが、途中で投げ出さず、最後まで読む自信がある人にだけおすすめします。

『また、桜の国で』

（須賀しのぶ：著/祥伝社/2016.10/第４回受賞作）

ロシア人の父と日本人の母を持つ棚倉慎(たなくら まこと)。一見スラヴ人と見紛うほどの端正な容姿を持つ彼は、ロシア人でもなく日本人にもなりきれない自分にコンプレックスを抱いていました。彼は外務書記生として、ポーランドの首都・ワルシャワの日本大使館に着任します。時は１９３８年の秋。ヒトラー率いるドイツ軍がズデーテン地方に侵攻し、第二次世界大戦が間近に迫っていました・・・。
事実に基づいた世界情勢を背景に、魅力的な登場人物たちが平和のため、未来のために闘います。約５００ページもの長編作品ですが、冗長さは全く感じられません。圧巻の物語です。

「高校生直木賞」とは、全国の高校生が集まって議論を戦わせ、直近一年間の直木賞の候補作から「今年の１冊」を選ぶ試みです。詳しくは「YAおすすめブックリスト 第 25 号」をご覧ください。